

## どうやっていますか？エコー知識の精度管理

◎宮田 真希<sup>1)</sup>  
三重大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

超音波検査は、非侵襲的で簡便な画像診断法として、幅広い分野で活用されている。しかし、検査結果が検者の知識や技量に左右されやすいという課題も存在する。そこで今回は、超音波検査における知識の精度管理の重要性と、当院での取り組みについて報告する。

## 2. 超音波検査における知識の精度管理の重要性

- 1) 診断の精度向上: 正確な知識に基づいた画像解釈はより確実な診断を導き出すことができる。
- 2) 検査結果の信頼性向上: 検者間、施設間の知識のばらつきをなくし、誰が検査しても同様な結果を得られるようにする。
- 3) 医療安全性の向上: 知識不足が原因となる誤判断や見落としを 방지し医療安全性を向上させる。
- 4) 専門性の向上: 継続的な知識の精度管理は検者の専門性を高めより高度な診断を可能にする。

## 3. 知識の精度管理の方法

### 1) 教育

教育プログラム: 新入職員は教育プログラムに沿って教育を行っている。File Maker でトレーニング記録を残しており、習得の進捗状況や疑問点の解決、指導者側の情報共有を行っている。  
標準作業手順書: 検査項目、装置ごとに標準作業手順書があり、最低限記録を残す画像、計測項目を統一している。

### 2) 内部精度管理

判読医からのフィードバック: 計測方法や報告書内容について、指摘があれば修正している。  
症例の情報共有: File Maker でその後の経過が気になる症例、稀な症例等について一覧化しており、検者間で情報共有できるようにしている。  
カンファレンスの実施: 月1程度、判断に迷った症例や稀な症例、画像等について循環器医・消化器内科医を交えてセンター内で検討し疑問点の解消や知識の共有と精度向上を図っている。この際、報告書を作成し不参加者にも内容の確認を行ってもらい周知している。  
院内研修会への参加: 各診療科で開催している院内研修会に参加し、疾患や画像検査、治療方法に関する知識を深めている。

### 3) 外部精度管理

日臨技・県技師会の画像コントロールサーベイへの参加: 不正解であった設問について、原因の調査、真因の特定、対策の実施、効果の確認などを行い、各要員へ情報共有することで検査手技や検査精度の向上を図っている。また、各要員が解答し答え合わせを行うことで、内部精度管理としても活用している。  
認定資格の取得: 超音波検査士等の資格を取得し、知識と技術のレベルを証明する。  
学会・研修会への参加: 学会や研修会に参加し、最新の情報収集と知識の up date を図る。

## 4. 知識の精度管理の継続

知識の精度管理は、一度行えば良いというものではない。医療技術やエビデンスは常に進歩しているため、継続的な取り組みが必要である。検査室全体で精度管理を意識し、質の高い超音波検査結果を提供できる体制を構築することが重要である。

## 5. まとめ

超音波検査における知識の精度管理は、診断の精度向上、検査結果の信頼性向上、医療安全性の向上など、様々なメリットをもたらす。検査室全体で精度管理に積極的に取り組み、精確な検査結果を患者さんや臨床医へ提供できるよう努めていきたい。